

るんびに

第七十九号

楊林山 正光寺

波多正文

尼崎市東大物町1-3-7
(06) 6481-3253

親



波多正宣

私は、二月の中旬に第三子を授かりました。と、言っても、私が産むわけではないので、何かそわそわしているだけの生活であります。
最近、男性でも、出産に立ち会われたりする方もおられる様ですが、自分も今、どうしようかと迷っている状態でありましたが、門徒様のお参り中に出産です。私の事はこの程度かも知れませんが、産む母親はいつもすいじいものであります。

一人目、二人目の育て方を見ていると、私は、「うーうーうーうーに育ててきてもらったのかと、今改めて、親に感謝したいものでもあります。」

善導大師の書かれた註釈書には

「母は子どもを宿すと、十ヶ月の間、寝てもさめても苦しい思いをし、しかも出産の時は死ぬほどの苦しみをします。もし無事に生まれても、二年たつまでは、「いつもオシシ」の中で寝て、ふとんや着物などもみんな不浄です。そんなに苦労して育てた子も、やがて大きくなって、家庭を持ち、妻を愛し、子をいとしんで、年老いた父母に対しては、かえって憎しみやねたみをいだくようになる。親の恩に報いるために孝養をつくさなければ、畜生とかわる事がない。犬や猫と同じです。」と書かれています。

善導大師が亡くなられて、三百年以上経った今でも、親の苦勞は変わりません。これは、親と子の深い結びつきを教えられたものです。しかし、現代では、夫婦の縁は切る事はできても、親子の縁は切ることが出来ないために苦しむ子もいると言われます。

何年か前に聞いた印象的な言葉で、「子を産んで親になるのではない。産んだ子に『お父さん、お母さんの子でよかった。ありがとう！』と言われて、親になれるのです。」という言葉がありました。私はとてもこの言葉で深く考えさせられました。

阿弥陀様は「同体の慈悲」といわれます。慈愛をこめて子を養育し、いのちとひとつになりきって下さる、そのおはたらきを尊く仰がずにはおられません。

正光寺行事

◆ 春季彼岸法要

三月二十二日(土) 午後二時〜四時

ご講師 中西智海 師

◆ 花まつり法要

四月五日(土) 午後二時〜四時

ご講師 藤田徹文 師

◆ 歎異抄勉強会

第三土曜日 午後二時〜三時

是非お参り下さい